

八戸地域防災協会 設立10周年記念式典



八戸地域防災協会



会報 防災だより

2019
VOL.22

3月31日発行

CONTENTS

1. ご挨拶 会長 大黒裕明 2P
2. 八戸地域防災協会設立10周年記念事業 3P
3. 防災協会視察研修 4P~5P
4. 災害時要援護者支援事業 5P
5. 全体研修会 5P
6. 甲種防火管理再講習会開催（後援） 5P
7. 各消防署ブロック主催事業 6P~7P
8. 八戸地域防災協会 会則の改正について 8P
9. 広域圏内の火災概況 8P

題字揮毫 大黒会長



ご挨拶

八戸地域防災協会

会長 大黒裕明

防災便り第22号をお届けします。

二月に開催されました当会の設立十周年記念祝賀会の際には、たくさんの方のご協力、ご参加をいただき、ありがとうございます。

また枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会の皆様も、遠方にもかかわらず片山会長を始めとして多くの方にご出席いただき感謝申し上げます。おかげさまで盛会裏のうちに終えることができ、安堵しました。当日は、観測史上最大と言われる寒波が北海道東北さらに関東までを覆い、各地で吹雪や積雪などによる被害がニュースで流されましたし、当地も祝賀会当日及び翌日の朝まで雪が降り続き、

大阪から来られた方々はさぞ驚かれたと思います。路面が固く凍結する事など関西ではめったに無いでしょうからインパクト

の強い思い出となったことでしょう。でもこれに懲りず、今後とも親しくお付き合いさせていただきます。また、昨年は山形県酒田市まで足を伸ばし、現地の消防や防災の取り組みについてお話を伺ってまいりました。江戸時代まで天領地で、酒田港から北陸・

山陰・瀬戸内を抜けて江戸まで米を届け、さらに各地の特産品等も扱い、当時全国一の海運業者であったと言う本間家の話には歴史とその時代を強く生きてきた人々の情熱を、また、風が

荒れることの多い風土ながら地形の利を生かした港湾や倉庫群の設計には、先人たちの知恵が結晶していることを感じました。説明を頂いた元消防長土井様のお話は、言葉の端々から地元愛が溢れて来るようで、こんな方々が住んでおられる酒田の街はこれからも益々繁栄していくだろうと、心の暖まる思いがしました。観光を始めとした産業振興、伝統や文化の維持と伝承、さらに地域防災活動などは

全て根が地元への愛着から生まれることで、氏は現在観光ボランティアをしていらっしゃるということでしたが、いつそうのご活躍をお祈りします。

昨年、台風や大雨に伴う洪水、地震や火山の噴火など自然災害の多い年でした。この傾向は当分変わらないものと推測しています。不思議なことに当地は神様に守られているかのようで大

きな影響を受けてはいませんが、でも油断は禁物で、私たちは万一のときの準備を普段から心がけていかなければなりません。当会は志を同じくする多くの人たちと交流を重ね、そのための活動をこれからも地道に続けてまいります。

今後とも当会の活動に深いご理解、ご支援、ご協力をお願いします。



枚方市寝屋川市防火協会役員との記念撮影

八戸地域防災協会 設立十周年記念事業

去る2月1日(金)、グランドサンピア八戸に於いて、「八戸地域防災協会設立10周年記念式典」が、盛大に挙行されました。当協会前身の八戸地域広域防火管理者協会が、昭和60年3月に友好姉妹協会の締結をし、現在も交流を続けている枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会からの来賓15名をはじめ、多数の来賓及び会員のご出席をいただきました。

式典に先立ち、大黒会長
作詞・作曲の
「八戸地域防
災協会の歌」
を音楽講師、
坂本利枝子様



のピアノ伴奏
と歌にあわせ、
参加者全員で
斉唱しました。
式典では、大
黒会長の式辞、
来賓及び主催



者役員の紹介と続き、八戸地域広域市町村圏事務組合管理者(八戸市長)代理で上野消防長、枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会の片山会長のお二方から祝辞をいただきました。

続いて長年、当協会の災害時要援護者支援事業にご協力をいただいております、八戸電気工業事業協同組合、協同組合八戸管工事協会及び株式会社ユアテック八戸営業所の各代表者へ、大黒会長より感謝状と記念品の贈呈が行われました。

また、10周年記念事業として、当協会から八戸地域少年消防クラブ育成協議会へ心肺蘇生訓練資機材(AEDトレーナと心肺蘇生用人形5セット)の寄贈が行われま



した。
式典終了後は、祝賀会が執り行われ、アトラクションとして披露された防火



虎舞で会場は大いに盛り上がり、参加者同士の懇親が深まる様子が見えま



した。

小野副会長の中締めでは、飛び入りで枚方市寝屋川市防火協会の平尾理事がステージに上がり絶妙な掛け合いをみせる場面もあり、盛会のうちに幕を閉じました。



枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会の方々は視察研修も兼ねており、2日目は八戸酒造株式会社を見学し、その後、八食センターを経由し、全

日程を終え大阪への帰路につかれました。

今回の事業行程には、当協会役員が同行したことにより、両協会の役員相互の懇親が深まり、さらに協会としての友好親善も深めることができたと感じました。

会員の皆様には、今後20周年に向けて地域における防災体制の確立のため、引き続きお力添えを賜りますよう、お願い致します。



視察研修

平成30年10月18日、19日の1泊2日で山形県酒田市視察に21名が参加しました。

視察研修に参加しての感想



株式会社愛和の里リーベ
事務長 渡部 敏男

平成30年度 八戸地域防災協会視察研修に、去る平成30年10月18日(木)、19日(金)の一泊二日で参加させていただきました。

長年勤めていた会社を退職後、初めての他職種への宿泊を伴う視察研修とのことで、多少不安と期待が交錯する中での参加となり、朝からドキドキ、ワクワクの感がありました。出発からバスの入れ替えなどのハプニングもあり、これは思い出深き旅となる良い展開を予感した記憶がありました。

中長距離のバス乗車は、実は高校生の修学旅行以来で、加齢からくるトイレの間隔に不安がありました。絶妙なタイミングのトイレ休憩で不安も解消し、更に添乗員様の絶妙なガイドに聞き入ったせいもあり、むしろ快適さを感じておりました。

いよいよ目的地に近づいたところで昼食となり、山形市内の「香味庵まるはち」にてバスを降りて、普段とはひと味違う店構えの郷土料理を味わいました。

何を食したかまでは詳細には記憶

していませんが、店主様より料理の説明を受けた事などで味わい深い昼食を堪能できたこと記憶しております。

一番の記憶は、食事した所が大正時代からの歴史ある建造物や塗り壁であった事でした。昼食後、バスで更に2時間ほどの乗車移動により、目的地の酒田市役所へ到着し、いよいよ本番の視察研修開始となりました。

講師は、酒田地区広域行政組合消防本部の前消防長の土井寿信氏であり、自らの経験と過去の資料を紐解いてオリジナルで作成した『酒田大火経験から伝えたい』という題名での資料を中心に説明を行っていただきました。

この中で興味深かったのが、参加者の記憶に新しいここ数年に発生した大火と、酒田大火の比較表であり、共通するのが、強風が吹き荒れている最中での火事発生と言う事でした。

また、八戸地域からの参加ということで、身近な地域の大火の記録を



紹介され、この中で強風という点で考えるには、記録だけで比較すると八戸市も年間平均風速は全国でも指折高い位置にあり、万が一強風下での火災発生となれば大規模となる要素が指摘されました。

また、資料後半にある『防御作戦』においては、電気、ガス、水道に関わるエキスパートならではの、すばらしい働きや、中でも命運をかけて防御線を死守した消防団員の働きが聴いていて感動するほど連携がしっかりしていたと思えました。

それぞれの職種に応じたすばらしい働きで、更なる大規模火災を防いだと言う記録は、普段からの防災意識や訓練、地域連携が確立されていたのだなあと非常に感心致しました。感慨深かった座学終了後は、大火発生元から燃え広がった町並みの延焼方向に沿って講師自らの体験を元にした『町歩き体験実地講習』を行いました。

観歩く町並みのすべてが当時消失して復興した建物であると知らされて、打ちひしがれた記憶が残りました。研修が終了した後で宿泊施設に走る中、日本海に沈む夕日を是非堪能



してほしいとの講師の気遣いとバスの運転手様の気遣いが見事に的中し、絶妙なタイミングで沈む夕日を堪能できました。

二日目は、庄内米歴史資料館(山居倉庫)の見学で、ここでも一日目に熱弁をふるった元消防長の土井様が山形県酒田市郷土観光大使として資料館の成り立ちや歴史について資料を中心に広く深く説明されておりました。

中でも興味を引いたのが、山居倉庫裏手のケヤキ並木で女優の吉永小百合がポスターに写っているその並木の立ち位置での全員記念撮影でした。

また、倉庫に米を保管する目的で、その建物内の湿気を防ぐための工夫や断熱の工夫など、米産地ならではの



各消防署ブロック主催事業

八戸消防署管内前期研修会

八戸消防署管内防災協会前期研修会は、平成30年9月28日(金)に消防本部4階及び5階の研修室で、大黒会長出席のもと開催されました。



51事業所64名の方の参加により「避難シミュレーション」をメインに、通報訓練と危険予知訓練を併せて実施しました。

避難シミュレーションは災害時における自助共助公助のうち、自助と共助について訓練を行うもので、10名ほどが1つのグループとなり、がれきなどの障害物のあるコースを怪我がない状態、そして数名が怪我をした状態で避難します。

負傷者がいる場合では助け合いながら避難することで、倍以上の時間が必要でした。負傷者役の方、介助する方、どちらも非常に困難だったと話されていました。

自助共助の重要性を再認識し、災害時に必要な「自分で考える力、行動する力」を醸成する足掛かりとなったのではないのでしょうか。

また、通報訓練では119番通報時の確かな伝達方法を学び、危険予知訓練では日常に潜む危険要因を洗い出し、それぞれ情報を共有することが

できました。参加者の皆さんは、どの訓練にも真剣に取り組んでおられ、防災意識の高揚が図られたものと思います。研修会後には八戸プラザホテルで懇親会を開催し、参加者一同親睦を深め、有意義なひと時を過ごすことができました。



八戸東消防署管内研修会

今年度、八戸東消防署管内では、2回の研修が開催されました。

1回目は、10月26日(金)に中華・和食 兆蘭を会場とし、9月6日(木)に発生した、北海道胆振東部地震による被災地の状況や緊急消防援助隊の活動について、研修会を実施しました。現地に派遣された八戸東消防署 第二特別救助隊長 白坂和成 消防司令補を講師とし、研修に参加した会員は、大きな災害の現状と経験に聞き入り、更なる防災



意識の向上と互いの連携を約束しました。研修会後には、会則改正概要説明及び役員選出が滞りなく行われ、懇親会では、災害がないよう祈念し、参加者一同親睦を深めることができました。

2回目は、11月6日(火)、7日(水)に八戸消防本部で普通救命講習会を実施しました。この講習では、八戸東消防署管内防災協会加入事業所だけでなく、福祉事業所へも参加を募り、防災協会の活動への理解と普及を図るとともに、救命救急の重要性を学び、心肺蘇生法とAED操作についての訓練を実施しました。



各研修会に参加していただいた皆さん、お疲れ様でした。

平成31年度もよろしくお願ひします。

三戸消防署ブロック総会・研修会

平成31年2月28日(木)に三戸町の「割烹 白山」で総会及び後期研修会を開催し、19事業所21名、三戸消防署管内職員11名の計32名が参加しました。

今年度の事業報告、収支決算報告及び役員選出について滞りなくとり

行われ、引き続き「防火管理ポケットマニュアルの活用」、「知って得する防災術・裏ワザ特集」と題して研修会を行い、幅広く防災知識を深めることができました。

受講者からは「講義の内容を職場の同僚にも広めたい」、「火災以外の災害にも対応できるように備えていきたい。」という声がかかれ、とても有意義な研修となりました。

また、懇親会では、三戸地区から災害を出さないよう誓い合いながら一層の親睦を深めることができました。



▶研修会 ▶総会

五戸消防署ブロック研修会

五戸消防署管内(代表…下館幸作理事)では、平成30年9月11日(火)五戸消防署管内14事業所の会員及び個人会員の19名が参加し、移転新築された「五戸消防署 新庁舎」で見学会と研修会を実施しました。新庁舎は五戸町の防災拠点として平成29年から工事に入り、今年6月に完成。7月23日に各関係者が多数出席して行われた「落成式」の後、7月31日から業務を開始しました。

研修会は、下館理事の挨拶の後、真新しい待機室、仮眠室や車庫、また、本年3月に配置になった最新鋭のタンク車や積載されている救助資機材等を見学しました。参加者一同は、普段立ち入ることのない場所や消防車、救急車に興味津々のようでした。その後訓練塔において、救助隊員による救助・救出訓練を見学し、有事の際、救助隊員に寄せる期待が高まっていました。休憩後は2階大会議室にて五戸消防署第一消防隊の大隊長から、「地域防災力」と題して防災講話があり、分かりやすく、かつ、面白おかしく講話していただき、面白おかしく講話していただき、見学会、研修会を通じて今まで以上に防災に対する意識の向上が図られ、とても有意義な研修会となりました。研修後は、場所を「尾形精肉店」に移して懇親会を開催。参加者一同五戸名産の「馬肉鍋」に舌鼓を打ち、より一層親睦を深めるとともに、共通の認識である「防災」に向けて突っ走ることを誓い楽しい一時を過ごしました。



また、今年2月19日には、アピル五戸において総員16名が参加し、平成30年度事業報告会・研修会を開催しました。報告会終了後、会則改正に伴う新役員の選出を行い、部長にプライフーズ（株）五戸食品工場の下館幸作氏、副部長に東北三吉工業（株）の梅田雅彦氏が選出されました。研修会は一各事業所における消防用設備等」と題し、五戸消防署の岸祐也第二救急隊長が講師を務め、各事業所に設置している設備の役割や取扱い方について説明すると、一同皆熱心に耳を傾けていました。その後行われた懇親会では、各会員及び消防職員間の親睦を深め、有意義な時間を過ごすことが出来ました。



おいらせ消防署ブロック前期研修会

おいらせ消防署ブロックでは平成30年度前期研修会を9月6日（木）に実施しました。

今回は、東日本大震災で被災した岩手県久慈地区の復興状況を視察したいとの



会員からの声もあり、久慈消防署様のご協力をいただきながらの視察研修となりました。

おいらせ消防署管内の会員24名、消防職員6名の総勢30名が参加し、バスでおいらせ消防署を出発、久慈市防災センター・久慈消防署からの研修スタートとなりました。

久慈消防署では中屋敷副署長から東日本大震災での体験談や色々な想いを主にご講義をいただき、更には特殊車両を含めた消防車両の展示、説明をしていただきました。

次に東日本大震災で多大な津波被害を受けた野田村を訪問し、久慈消防署での講義の中でお話し頂いた災害直後の映像の様子と比べ、建物や道路、公園等が整備され、空地が目立つ部分はあるものの着実に復興に向かっていていることを会員皆で感じる取事が出来ました。



その後には東日本大震災で全壊し、平成28年4月に営業を再開した久慈市復興の象徴ともいえる水族館「もぐらんぴあ」を見学しました。

最初に館長さんの案内で屋上へ上がり、実際に海を見ながら被災当時の様子を主にたくさんのお話をさせていただきました。実際に津波の来た

方向やその波が岩にぶつかり方向が変わっていく様子など海を目の前にしたりアリエイある説明に皆で興味深くお話を聞く事が出来ました。

その後には水族館に移動し、地元のお魚のいる久慈の海水槽や再開まで八戸市水産科学館マリエントに預けられていた「かめきち」のいるトンネル水槽などを見学、楽しい時間を過ごしました。

行き帰りには休憩場所の「たねいちふれあいセンター」と「道の駅のだ」で買い物を楽しみました。車中では「防災クイズ」で盛り上がり、成績優秀者には、豪華防災グッズが送られるなど会員皆で有意義な時間を過ごしました。

研修終了後には、おいらせ町の月見旅館において懇親会を行い、笑い声の絶えない楽しい時間を過ごし、一層の親睦を深めることができました。



八戸地域防災協会会則の改正について

☆平成 31 年度総会の翌日から会則が改正され、防災協会の体制が5つの部会になります。

防 災 協 会 役 員				
	会 長	副 会 長	理 事	監 事
八戸部会 【八戸消防署管内】	1 名	6 名 (部会長・副部会長が含まれる)	12 名	3 名
八戸東部会 【八戸東消防署管内】		2 名 (部会長・副部会長)	4 名	
三戸部会 【三戸消防署管内】		1 名 (部会長)	1 名 (副部会長)	
五戸部会 【五戸消防署管内】		1 名 (部会長)	1 名 (副部会長)	
おいらせ部会 【おいらせ消防署管内】		1 名 (部会長)	1 名 (副部会長)	
計	1 名	11 名以内	22 名以内 (少年・幼年・女性各消防クラブの会長 3 名を含む)	3 名

※今までの「防火管理専門部会（1から7部会）」、「消防設備専門部会」及び「自衛消防専門部会」の各事業所は、それぞれの事業所が所在する各部会に編入する形となります。

平成30年広域圏内の火災概況

(平成30年1月1日～12月31日)

△は減少

☆火災の発生状況は、総出火件数が108件で、前年に比べ22件の増加となっている。

火災種別でみると、建物火災60件（前年比11件増）、林野火災7件（同2件増）、車両火災12件（同5件増）、その他の火災29件（同4件増）である。

建物の焼損面積（床面積及び表面積）は、前年に比べ252㎡増加し、林野の焼損面積は、前年に比べ199a増加している。

死者は4人で、前年と同数、負傷者は26人で、前年に比べ3人増加している。

また、損害額は、3億5,835万3千円で、前年に比べ2億1,952万円増加している。

区 分		平成30年(A)	平成29年(B)	増減(A)-(B)
総 出	火 件 数	108	86	22
火 災 種 別	建 物	60	49	11
	住 宅	35	27	8
	林 野	7	5	2
	車 両	12	7	5
	船 舶			
	航 空 機			
	そ の 他	29	25	4
焼 損	棟 数 (棟)	81	83	△2
程 度	全 焼	31	26	5
	半 焼	6	5	1
	部 分 焼	34	28	6
	ぼ や	10	24	△14
り 災	世 帯	40	40	
程 度	全 損	14	11	3
	半 損	4	1	3
	小 損	22	28	△6
り 災	人 員 (人)	94	102	△8
死 者	(人)	4	4	
負 傷 者	(人)	26	23	3
建物焼損床面積	(㎡)	4,257	3,804	453
建物焼損表面積	(㎡)	354	555	△201
林野焼損面積	(a)	216	17	199
損 害 額	(千円)	358,353	138,833	219,520
種 別	建 物	349,467	136,674	212,793
	林 野	1,291	986	305
	車 両	6,796	1,046	5,750
	船 舶			
	航 空 機			
	そ の 他	799	127	672

